

株安を受けた為替市場の動向について

2015年8月25日

<多くの通貨が対米ドルで下落>

為替市場では、このところ対米ドルで多くの国の通貨が下落に見舞われました。およそ2週間前に中国が人民元の事実上の切り下げを実施したことで、世界的な通貨安競争に拍車がかかるのではないかと懸念が生じていたことに加えて、中国の天津における大規模な爆発事故がさらなる景気不透明感を高め、中国株式市場の再度の急落が世界的な株式市場の下落幅拡大を招いた結果、為替市場においてもリスク回避姿勢が急速に高まりました。また、中国を初めとした世界経済の減速懸念が、原油などの資源価格の急落を招いたことも影響しています。

<中国への輸出依存度が高い国の通貨が下落>

リスク回避姿勢が高まった主因が中国の景気不透明感だったため、中国への輸出依存度が高い国の通貨の下落幅が大きくなる傾向となりました。豪ドルは、一時は1豪ドル=0.70米ドル台と2009年以来の安値となり、ブラジル・レアルは1米ドル=3.55レアル台と2003年来の安値を更新しました。また、韓国ウォンは2011年以来の1米ドル=1,200ウォン近辺の米ドル高ウォン安となるなど、その影響は多くの同じアジア圏の通貨に及びました。

<資源国通貨も下落>

原油価格の下落が続いたことで、ロシアやメキシコなど歳入におけるエネルギー依存度が高い国の通貨も下落しました。カナダは中国への直接の輸出割合が低いにもかかわらず1カナダ・ドル=1.33米ドル近辺と、2004年以来の対米ドル安値水準となっています。

<リスク回避姿勢の高まりによる円高>

世界的な株価下落が投資家のリスク回避姿勢を高めた結果、米ドル円相場も一時1米ドル=116円台と、短期的に大幅な円高が進行し、今年1月以来の円高となりました。その結果、上記の通貨の対円相場も下落し、ブラジル・レアルは2003年来の、豪ドルは2012年来の、カナダ・ドルは2013年来の、韓国ウォンはほぼ1年ぶりの安値となっています。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

<今後の見通し>

世界的な株価の急落により、リスク回避姿勢が急速に高まったことが、投資家の各国通貨の売りを招いていると考えられます。中国の景気不透明感は以前からある程度は市場に共有されており、世界的な株価を持続的に大幅に押し下げる材料とまでみなすことは困難と思われます。株価の急落からの連想により、リーマン・ショックのような甚大な経済危機への懸念が頭をもたげやすいものの、マクロ経済指標からは世界的な需要の大幅な後退の兆しが乏しいこと、先進国の金融システムへの不安が高まる可能性が低いことなどから、株式市場が安定感を強めれば、投資家は徐々に落ち着きを取り戻すことが想定されます。また金融市場の不安定感が残存した場合、米国の利上げ開始の先送りや、日本やユーロ圏の追加的な金融緩和観測が高まりやすく、それ以外の通貨の下支えになることが期待されます。

以上